



**株式会社浅沼組**

2023 年 3 月期決算説明会

2023 年 5 月 18 日

## イベント概要

---

|          |                                                                    |
|----------|--------------------------------------------------------------------|
| [企業名]    | 株式会社浅沼組                                                            |
| [企業 ID]  | 1852                                                               |
| [イベント言語] | JPN                                                                |
| [イベント種類] | 決算説明会                                                              |
| [イベント名]  | 2023 年 3 月期決算説明会                                                   |
| [決算期]    | 2023 年度 通期                                                         |
| [日程]     | 2023 年 5 月 18 日                                                    |
| [ページ数]   | 29                                                                 |
| [時間]     | 11:00 – 11:41<br>(合計：41 分、登壇：39 分、質疑応答：2 分)                        |
| [開催場所]   | 103-0026 東京都中央区日本橋兜町 3-3<br>兜町平和ビル 2 階 第 2 セミナールーム (日本証券アナリスト協会主催) |
| [会場面積]   | 145 m <sup>2</sup>                                                 |
| [出席人数]   | 4 名                                                                |
| [登壇者]    | 3 名<br>代表取締役社長執行役員 浅沼 誠 (以下、浅沼誠)<br>代表取締役 専務執行役員 山腰 守夫 (以下、山腰)     |

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptasia.com



執行役員

浅沼 真里香（以下、浅沼真里香）

---

## サポート

|         |               |         |                         |
|---------|---------------|---------|-------------------------|
| 日本      | 050-5212-7790 | 米国      | 1-800-674-8375          |
| フリーダイヤル | 0120-966-744  | メールアドレス | support@scriptsasia.com |



## 登壇

---

**司会：**それでは定刻となりましたので、ただ今から株式会社浅沼組様の 2023 年 3 月期、決算説明会を開催いたします。

まず、最初に同社からお迎えしております、3 名様をご紹介します。代表取締役社長執行役員、浅沼誠様。代表取締役専務執行役員、山腰守夫様。執行役員コーポレートコミュニケーション部長、浅沼真里香様。

本日は、まず最初に浅沼社長からご挨拶をいただき、続いて執行役員、浅沼部長から決算のご説明をいただきます。ご説明いただいた後、質疑応答の時間を取らせていただきます。

それでは、どうぞよろしくお願いいたします。

**浅沼誠：**ただ今ご紹介いただきました、社長の浅沼誠です。本日はお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。これより、株式会社浅沼組の 2023 年 3 月期の決算説明を開催いたします。

まずは私よりご挨拶と、簡単に決算概要をご説明申し上げます。

2023 年 3 月期は新型コロナウイルス感染症の収束の兆しがようやく見え、民需が戻ってきた一方、ロシアのウクライナ侵攻によるサプライチェーンの混乱に伴うインフレ、資材高騰がありましたが、弊社としましては従来以上に採算重視の受注活動を行い、業績への影響を最小限にとどめることができました。

また、昨年度は社員の逮捕による指名停止もございました。大変ご迷惑をおかけしましたこと、改めてお詫び申し上げます。

これら、弊社にとってハードルや課題もございましたが、投資先のシンガポール子会社での好調な業績が貢献したこともあり、連結ベースでは受注高、および売上、利益、全て計画達成という結果になりましたので、配当も計画どおりを予定しております。

2024 年 3 月期は、弊社の中期 3 ヶ年計画の最終年度です。引き続き厳しい外部環境変化に対応しつつ、業績目標達成に向け、全社一丸となって施策推進にまい進してまいります。

それでは業績等の詳細につきましては、弊社執行役員コーポレートコミュニケーション部長、浅沼真里香よりご説明させていただきます。

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

|                               |                  |              |
|-------------------------------|------------------|--------------|
| <b>1. 業績（実績・計画）</b>           | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | <b>P. 1</b>  |
| （1）主な実績・計画                    | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | P. 2         |
| （2）受注の内訳                      | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | P. 5         |
| <b>2. 中期3ヵ年計画の進捗状況</b>        | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | <b>P. 6</b>  |
| （1）維持・修繕事業（リニューアル）            | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | P. 7         |
| （2）生産労働人口の減少への対応              | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | P. 11        |
| （3）非財務経営活動（E S G ・ S D G s 等） | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | P. 14        |
| <b>3. 投資と株主還元</b>             | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | <b>P. 17</b> |
| <b>4. Topics</b>              | ・・・・・・・・・・・・・・・・ | <b>P. 19</b> |

**浅沼真里香**：コーポレートコミュニケーション部の浅沼真里香です。よろしくお願いいたします。

本日はこの2ページ目の目次に記載しております、四つの項目についてご説明申し上げます。

まず一つ目は業績の実績と計画、二つ目は中期3ヵ年計画の進捗状況、そして三つ目には投資と株主還元の内容、それから最後にトピックスと記載がございますけれども、2023年3月期で、記事などで取り上げていただいた内容についてご説明させていただきます。

## 1. 業績（実績・計画）

### （1）主な実績・計画 ①主要な数値



- ① 2023/3期は国内建築の受注時期の遅れ及び資材高により単体ベースでは売上・利益共に計画未達なるも、シンガポール子会社の好調な業績及び国内土木の大口追加工事を主因とし、連結ベースでは受注・売上・利益共に計画を達成。
- ② 2024/3期はシンガポール子会社の業績計画を例年並みとしたことに加え、持越工事内容も鑑み、営業利益ベースで中期計画比▲27億円の下方修正。但し、当期利益及び配当は中計通り実施予定。

| 主要項目<br>(連結)<br>(単位: 百万円) | 2022/3期  |         |          | 2023/3期         |                 |               |                   | 2024/3期           |                   |          |
|---------------------------|----------|---------|----------|-----------------|-----------------|---------------|-------------------|-------------------|-------------------|----------|
|                           | 中期<br>計画 | 実績      | 中計比      | 中期<br>計画        | 修正<br>計画        | ① 実績          | 修正計画比             | 中期<br>計画          | ② 修正<br>計画        | 中計比      |
| 受注高                       | 132,100  | 136,568 | 4,468    | 141,500         | 141,600         | 144,743       | 3,143             | 146,600           | 144,700           | △1,900   |
| 売上高                       | 140,000  | 135,478 | △4,521   | 135,500         | 144,300         | 144,436       | 136               | 137,334           | 141,800           | 4,466    |
| 売上<br>総利益                 | 13,900   | 13,444  | △455     | 15,261          | 14,630          | 15,139        | 509               | 15,443            | 13,950            | △1,493   |
| 売上<br>総利益率                | 9.9%     | 9.9%    | 0.0P     | 11.3%           | 10.1%           | 10.5%         | 0.3P              | 11.2%             | 9.8%              | △1.4P    |
| 販管費                       | 8,560    | 8,609   | 49       | 8,728           | 9,020           | 9,447         | 427               | 8,710             | 9,850             | 1,140    |
| 営業利益                      | 5,340    | 4,835   | △504     | 6,533           | 5,610           | 5,691         | 81                | 6,733             | 4,100             | △2,633   |
| 親会社株主に<br>帰属する<br>当期純利益   | 4,170    | 3,748   | △421     | 4,400           | 4,120           | 4,200         | 80                | 4,540             | 4,540             | 中計<br>通り |
| 配当                        | 363円     | 363円    | 中計<br>通り | *191円<br>(382円) | *191円<br>(382円) | *191円<br>(予定) | 中計・<br>修正計画<br>通り | *197.5円<br>(395円) | *197.5円<br>(395円) | 中計<br>通り |
| 配当性向                      | 70.2%    | 78.1%   | 7.9P     | 70.1%           | 74.8%           | 73.3%         | △1.4P             | 70.2%             | 70.2%             | 中計<br>通り |

\*2022年8月1日を効力発生日として実施した株式分割（普通株式1株につき2株の割合）を考慮した金額を記載

4

まず最初に一つ目、業績の、実績と計画についてご説明申し上げます。

4 ページ目をご覧ください。このページには弊社の現中期 3 ヶ年計画、2022 年 3 月期から始まりましたが、その 3 期の業績の推移を表でお示しさせていただいております。

まず中段の中ほどにある、赤丸 1 のところをご覧ください。ここでは 2023 年 3 月期の実績についてご説明申し上げます。

まず 1 行目の受注高につきましては 1,447 億 4,300 万円、売上高につきましては 1,444 億 3,600 万円。4 行ほど下がっていただきまして、営業利益につきましては 56 億 9,100 万円。そしてその下、当期純利益につきましては 42 億円という着地になりました。

連結ベースではその右、修正計画比と記載がございますが、そこをご覧くださいますとおり、受注高、売上高、利益、全て計画達成という結果になりました。

その主な要因としましては二つございまして、昨年 1 月に買収しましたシンガポール子会社、Evergreen 社という会社があり、そこで大口の工事を受注しまして、その工事も問題なく着実に進捗したことにより、こういった業績になりました。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



またもう一つの要因としましては、弊社の国内の土木事業で大口の追加工事があったことも、連結の業績の計画達成に寄与してございます。

これらの業績の結果を踏まえまして、先ほど社長からもご説明いたしましたけれども、下から2行目の配当のところをご覧くださいまして、計画どおり191円を予定しておりまして、その下、配当性向につきましても73.3%と、前年度に引き続き70%以上を確保してございます。

続きまして、右側の赤枠丸2のところをご覧ください。2024年3月期の修正計画につきましては、受注高については1,447億円、売上高につきましては1,418億円、営業利益につきましては41億円。そして、当期純利益につきましては45億4,000万円を計画しております。

また右側の中計比をご覧ください。中期計画との比較数値を載せておりますが、当初中期計画を発表した際にお伝えしておりました数字よりも、この中ほどの営業利益をご覧くださいまして、営業利益ベースでマイナス26億3,300万円ほどの下方修正を実施しております。

その主な理由としましては、中期計画策定時点では想定しておりませんでした資材価格の高騰と賃上げの二つの要因により、下方修正を実施しております。

ただし、まだ決定事実ではございませんが、特別利益の計上を予定しておりますので、当期利益、下から3行目のところにつきましては中期計画どおり、そして配当についても昨年度同様、中期計画どおりの197.5円を予定しております。

---

## サポート

|         |               |         |                         |
|---------|---------------|---------|-------------------------|
| 日本      | 050-5212-7790 | 米国      | 1-800-674-8375          |
| フリーダイヤル | 0120-966-744  | メールアドレス | support@scriptsasia.com |



## 1. 業績（実績・計画）

### （1）主な実績・計画 ②経営指標



- 営業利益率は3期連続中期計画未達（下表①）
- 一方、ROE（自己資本利益率、下表②）は株主資本コスト、ROIC（投下資本利益率、下表③）は資本コスト（WACC）を各期とも上回る水準にて確保
- PBRについても1倍以上を確保（下表④）

| 主な経営指標<br>（連結）    | 2022/3期  |      |         | 2023/3期  |          |      |        | 2024/3期  |          |         |
|-------------------|----------|------|---------|----------|----------|------|--------|----------|----------|---------|
|                   | 中期<br>計画 | 実績   | 中計比     | 中期<br>計画 | 修正<br>計画 | 実績   | 修正計画比  | 中期<br>計画 | 修正<br>計画 | 中計比     |
| ① 営業利益率           | 3.8%     | 3.6% | △0.2P   | 4.8%     | 3.9%     | 3.9% | —      | 5.0%     | 2.9%     | △2.1P   |
| ROE<br>（自己資本利益率）  | 10.1%    | 9.0% | ② △1.1P | 10.2%    | 9.6%     | 9.7% | ② 0.1P | 10.0%    | 10.2%    | ② 0.2P  |
| 株主資本コスト           | 8.0%     | 7.5% | △0.5P   | 8.0%     | 7.5%     | 5.5% | △2.0P  | 8.0%     | 5.5%     | △2.5P   |
| ROIC<br>（投下資本利益率） | 7.1%     | 6.4% | ③ △0.7P | 8.3%     | 7.3%     | 7.3% | —      | 8.3%     | 5.2%     | ③ △3.1P |
| WACC<br>（資本コスト）   | 6.0%     | 6.1% | 0.1P    | 6.0%     | 6.0%     | 4.7% | △1.4P  | 6.0%     | 4.7%     | △1.3P   |
| PBR<br>（株価純資産倍率）  | —        | 0.9倍 | —       | —        | —        | 1.1倍 | ④ —    | —        | —        | —       |

5

続きまして、5 ページ目をご覧ください。弊社の経営指標についてご説明申し上げます。

まず、左上の赤丸1の営業利益率のところについてご説明申し上げます。先ほど言及しましたとおり、資材価格の高騰、賃上げの要因により、3期連続中期計画未達となります。

一方で赤丸2、ROEをご覧くださいますと、3期ともにその下の株主資本コストをしっかりと上回る水準で推移する予定でございまして、またその下、赤丸3のROICをご覧くださいますとおり、その下のWACCをしっかりと3期ともに上回る水準を確保する予定でございます。

ちなみに株主資本コストとWACCが2023年3月期で、前年対比が下がっている状況ではございますけれども、これはβ値が下がったことによるものでございます。

最後に一番下の行のPBRについても言及させていただきますと、赤丸4のとおり、2023年3月期はぎりぎりではございますけれども、1倍を超えた水準を確保してございます。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



## 1. 業績（実績・計画）

### （2）受注の内訳

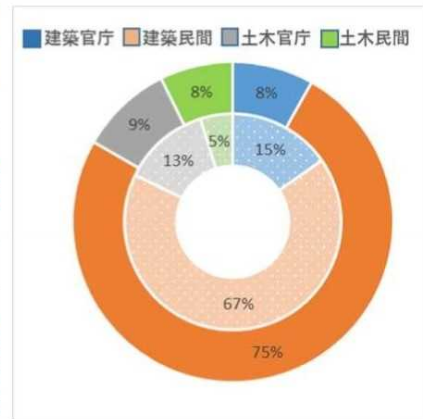


- ① 単体では、**建築民間が堅調に推移**
- ② 土木は前期比マイナスだが、**建築でカバーし、連結受注計画1,416億円を達成**

（単位：百万円）

|                  |     | 2022/3期 | 2023/3期 |                    |
|------------------|-----|---------|---------|--------------------|
|                  |     | 実績      | 実績      | 前期比                |
| 親会社<br>単体        | 建 築 | 110,110 | 113,277 | 3,167              |
|                  | 官庁  | 20,600  | 11,131  | △9,469             |
|                  | 民間  | 89,509  | 102,146 | 12,637             |
|                  | 土 木 | 23,876  | 22,666  | △1,210             |
|                  | 官庁  | 17,431  | 12,666  | △4,765             |
|                  | 民間  | 6,444   | 9,999   | 3,554              |
|                  | 建土計 | 133,986 | 135,943 | 1,957              |
|                  | 官庁  | 38,032  | 23,798  | △14,234            |
|                  | 民間  | 95,953  | 112,145 | 16,192             |
| 海外子会社            |     | 2,582   | 8,812   | 6,230 <sup>1</sup> |
| 連 結 <sup>2</sup> |     | 136,568 | 144,743 | 8,174              |

1. 2022年1月に買収したシンガポール子会社Evergreen社の連結子会社化に伴う増加  
2. 連結調整後の数字



円グラフ：個別受注状況  
外側：2023/3期  
内側：2022/3期

6

続きまして、6 ページ目をご覧ください。ここでは受注の内訳、内容についてご説明させていただきます。

まず赤丸 1 をご覧いただきまして、こちらの一番右の列を見ていただくとおり、前期比プラスの数字になっておりまして、建築民間につきましては堅調に推移している状況でございます。

また赤丸 2 の枠をご覧いただきますとおり、そちらの 2 行目の官庁については、一番右の列の通り、前期比マイナスという表記になっておりますけれども、こちらは去年受けた指名停止の影響で前期比減少という結果になっております。

一方でその一つ下の民間の行をご覧いただきますと、前期比プラスとなっておりますので、こちらご覧いただきますとおり、官庁で前期比マイナスになった分を民間でしっかりカバーした結果になっております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



## 2. 中期3ヵ年計画の進捗状況



|                        |       |       |
|------------------------|-------|-------|
| 1. 業績（実績・計画）           | ..... | P. 1  |
| (1) 主な実績・計画            | ..... | P. 2  |
| (2) 受注の内訳              | ..... | P. 5  |
| 2. 中期3ヵ年計画の進捗状況        | ..... | P. 6  |
| (1) 維持・修繕事業投資（リニューアル）  | ..... | P. 7  |
| (2) 生産労働人口の減少への対応      | ..... | P. 11 |
| (3) 非財務経営活動（ESG・SDGs等） | ..... | P. 14 |
| 3. 投資と株主還元             | ..... | P. 17 |
| 4. Topics              | ..... | P. 19 |

### 中期3ヵ年計画における基本方針：浅沼組らしさ(独自性)を深耕させ「変化に挑戦」

|               |                                                                                                                           |
|---------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 変<br>化<br>(1) | 外部環境変化「長期的に縮小する国内建設投資とインフラ・建築構造物の老朽化」に対する<br>国内維持・修繕事業投資（リニューアル）<br>対する打ち手 ①『ReQuality』ブランド戦略の推進 ② 技術の高度化 ③ ASEAN地域での事業強化 |
| 変<br>化<br>(2) | 生産労働人口の減少への対応<br>対する打ち手 ① 協力会社との協働推進 ② DX推進                                                                               |
| 変<br>化<br>(3) | 非財務経営活動(ESG・SDGs等)による企業評価向上の機運<br>対する打ち手 ① エコフレンドリーASANUMA21の推進 ② サステナビリティの推進<br>③ コーポレートガバナンス体制の強化                       |

7

続きまして、7 ページ目をご覧ください。ここからは中期3ヵ年計画の進捗状況についてご説明申し上げます。

先ほども少し触れましたが、私どもの中期3ヵ年計画は2022年3月期に始まりまして、2023年3月期で2年目という状況になっておりますけれども、当初中期3ヵ年計画を掲げたときに、基本方針として浅沼組らしさ（独自性）を深耕させ、変化に挑戦という方針を掲げました。

その変化を、変化1、変化2、変化3と三つの外部環境変化を特定しました。

一つは中長期的に縮小する国内建設投資、およびインフラ・建築構造物の老朽化という点。もう一つは生産労働人口の減少、三つ目が非財務経営活動による企業価値向上の機運と、この三つを変化として捉えました。それに対して、対する打ち手と記載をしておりますけれども、打ち手としてさまざまな施策を実行してまいりました。

先ほどのご説明のとおり、2023年3月期はこの中期計画の2年目となりますので、これらの施策の実行状況についてご説明申し上げます。

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



## 2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

### (1) 維持・修繕事業（リニューアル） 実績・計画



- リニューアル事業は、中期3ヵ年計画最終年度2024/3期における目標である「**建築リニューアルの営業利益を連結営業利益の35%**」達成に向け、**着実に拡大中**

#### 建築リニューアル（国内外合計）連結営業利益に占める割合

（単位：百万円）

|         | 2022/3期 | 2023/3期 |      | 2024/3期 |
|---------|---------|---------|------|---------|
|         | 実績      | 実績      | 前期比  | 計画      |
| 営業利益シェア | 30.0%   | 31.0%   | 1.0P | 35.2%   |

#### 内、国内 建築リニューアル

|         |        |        |        |        |
|---------|--------|--------|--------|--------|
| 受注高     | 16,620 | 17,553 | 932    | 20,000 |
| 完成工事高   | 17,094 | 17,376 | 282    | 18,000 |
| 営業利益    | 1,503  | 860    | △643   | 1,120  |
| 営業利益シェア | 31.1%  | 15.1%  | △16.0P | 27.3%  |

#### 内、ASEANリニューアル

|         |       |        |       |        |
|---------|-------|--------|-------|--------|
| 受注高     | 2,582 | 8,812  | 6,230 | 9,700  |
| 完成工事高   | 2,335 | 10,885 | 8,549 | 10,000 |
| 営業利益*   | △52   | 902    | 955   | 323    |
| 営業利益シェア | △1.1% | 15.9%  | 16.9P | 7.9%   |

\*ASEAN子会社ののれん償却費を含む

8

8 ページ目をご覧ください。まず一つ目の変化として、先ほど申し上げた中長期的に縮小していく国内建設投資、あるいはインフラの老朽化に対応すべく、弊社では維持・修繕事業のことをリニューアル事業と申し上げますが、リニューアル事業に注力しております。

一番上のトップボックスにも記載のとおり、建築リニューアル事業における営業利益を連結全体の営業利益の35%以上に、中期計画の最終年度には達成するという目標を掲げてございます。

その目標を達成すべく、後ほどもう少し詳細を説明しますが、国内では建築リニューアル事業の独自ブランド、「ReQuality」というブランドを立ち上げ推進しているのと、海外では先ほども少し言及しましたが、リニューアル関連事業を行っているシンガポール子会社を買収し、事業の強化を行ってございます。

足元の進捗としましては、中段の表の一番下の行を見ていただきたいのですが、国内につきましては営業利益の連結に対するシェアは15.1%、ASEANにつきましては営業利益のシェアを15.9%にて、2023年3月期は着地しました。トータルで赤点線枠の中の実績をご覧いただきたいのですが、31.0%までできました。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



先ほど申し上げましたとおり、中期計画の最終年度では 35%以上の達成を目標に掲げておりますが、計画ベースでも 35.2%と、目標を達成する見込みでございます。

## 2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

### (1) 維持・修繕事業（リニューアル）①『ReQuality』ブランドの推進



- **リニューアル事業を「ReQuality」という名でブランド化し、モデルケースとしてリニューアルした名古屋支店は、WELL認証ゴールドの取得の他、グッドデザイン・ベスト100等、多数を受賞**

#### 名古屋支店改修プロジェクト



- ・循環型の環境配慮をテーマとした長期的な視点をもったデザイン
  - ・環境配慮に加え健康で快適なオフィス空間を実現。
- 建物の利用者の健康や快適性を評価する「WELL認証 ゴールド」を取得  
(築30年のオフィス全体の改修での認証取得は日本初)

#### グッドデザイン・ベスト100に選出\*その他多数受賞（主な受賞一覧は以下）

- ・ crQlr Awards (サーキュラー・アワード) 2022 アーバニズム賞
- ・ Sky Design Awards 建築部門Silver賞
- ・ 第1回SDGs建築賞 準グランプリ
- ・ 中部建築賞
- ・ 環境・設備デザイン賞 第II部門優秀賞



「ReQuality」ブランドのロゴ



WELL認証ゴールドの証書

\* 主催：公益財団法人日本デザイン振興会

続きまして、9 ページ目をご覧ください。実際にその目標達成に向けた取り組みの一つであります、「ReQuality」というブランドを国内の建築事業強化の一環で立ち上げておりまして、その推進を図っております。

その「ReQuality」というブランドのコンセプトは、「人間（ひと）にも地球にもより良い循環」というコンセプトで、独自技術の活用、また ICT を駆使して推進しております。職場や生活環境にとって、より良い空間の創出を目指して、お客様への提案の強化を行っております。

左側に写真をいくつか貼ってございますけれども、弊社は全国にいくつか支店があり、そのうちの名古屋にございます名古屋支店の改修を行いました。その結果、健康快適性を基準に建物を評価する WELL 認証、右側のほうに記載をしておりますけれども、WELL 認証のゴールドランクを去年の7月に獲得いたしました。

これは実はもともとのビルが築 30 年以上経過しており、そのビルで、リニューアルでこの WELL 認証のゴールドランクを取得するのは、日本で初となっております。

#### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



またそれ以外にもこの改修工事は多くの賞をいただいております、その一つが左下、太字下線で記載しておりますとおり、皆様も耳にされたことはあるかと思いますが、グッドデザイン・ベスト100にも選出していただきましたし、その下、crQlr Awards2022年、アーバニズム賞といった賞の獲得や、あるいはその下、これは海外の賞でございますけれども、Sky Design Awards、建築部門シルバー賞を受賞。あとは記載の賞等々を受賞しております。

それ以外にも、各種様々な記事への掲載や、国内外の建築雑誌への掲載と、多数取り上げていただきました。

## 2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

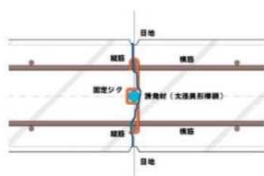
### (1) 維持・修繕事業（リニューアル） ②技術の高度化



■ 耐震補強や建物の長寿命化等に関する弊社独自技術を用い、顧客宛の建物リニューアル提案を強化

#### 建物の長寿命化

コンクリートのひび割れを制御（目地へ誘発）し、壁面や床面にひび割れを起こさずきれいな状態を保存でき、且つ長寿命化に寄与（CCB工法<sup>1</sup>・PRS目地充填工法<sup>2</sup>）



CCB工法概要断面図



CCB工法によりひび割れ誘発



PRS目地充填工法施工状況

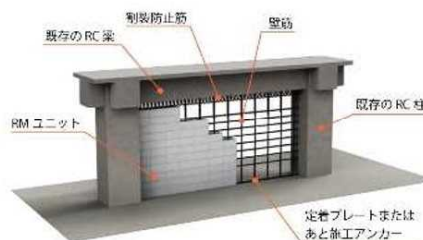


PRS目地充填状況

1. Crack Control Bar工法 2. Porous Resin Sand工法

#### 耐震補強技術

建物を使用しながら、耐震化が可能（安震ブロック）  
建物内にRM増設壁を構築し、耐震壁（RM増設耐震壁）として機能させる耐震補強工法（RM耐震補強工法）



続きまして、10 ページ目をご覧ください。ここではリニューアル事業強化の一環として掲げております、技術の高度化についてご説明申し上げます。

まず、一つ目は左側をご覧ください。弊社独自の技術を用いて、建物の長寿命化を図っております技術についてご紹介します。

こちらは括弧書きのところに記載してありますが、CCB 工法と申しまして、この写真の特徴としては、コンクリートに生じるひび割れの位置をコントロールし、放っておくといろんなところにひび割れができてしまうものを最小限にとどめ、防止する効果のある技術でございます。

#### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



リニューアル工事で壁を増設したりする際にこの技術を用いることで、その壁をきれいな状態に保つことができます。

さらにその下、二つの写真をご覧くださいとおり、PRS 目地充填工法という工法があり、そちらと一緒に併用することにより、壁の上に貼る壁紙などの亀裂やしわを防止することができ、将来の修繕費のコストダウンを図るとともに、長寿命化を実現することができます。

CCB 工法は、弊社が CCB 工法協会の会長をやっていますが、これらの工法は他社施工物件も含めて 280 件以上実績がございます、建物の長寿命化の効果が認められているものです。

続きまして、二つ目の技術をご紹介します。右側をご覧ください。

記載の、あんしんブロックと読みますが、安震ブロックは写真にもありますとりの特殊なブロックにより耐震壁をつくることができまして、従前の一般的な施工方法であるコンクリートを直接打設する方法に比べて、作業するスペースを縮小したり、あるいは工事による騒音を低減したりということが出来ます。したがって、建物を使用しながらこういった工事を行うことが可能でございます。

また、一般的なコンクリートを直接打設というものよりも廃材も少ないことから、環境負荷低減も期待することができます。

---

## サポート

|         |               |         |                          |
|---------|---------------|---------|--------------------------|
| 日本      | 050-5212-7790 | 米国      | 1-800-674-8375           |
| フリーダイヤル | 0120-966-744  | メールアドレス | support@scriptsasias.com |

## 2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

### (1) 維持・修繕事業（リニューアル） ③ASEAN地域での事業強化



- シンガポールでは買収した2社のリニューアル関連子会社の業績が堅調推移
- タイでは炭素繊維シートによる橋等の補強事業を推進（JICA支援事業に認定）

| シンガポール                                                                                                                                                                                                     |                |                     |                  |       |       |     |
|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------|---------------------|------------------|-------|-------|-----|
| 名 称                                                                                                                                                                                                        | 取得             | 事業内容                | 2023/3期 実績 (百万円) |       |       |     |
|                                                                                                                                                                                                            |                |                     | 受注               | 売上    | 営業利益  | のれん |
| SINGAPORE PAINTS & CONTRACTOR PTE. LTD.                                                                                                                                                                    | 2018年10月       | 建物塗装<br>修繕工事        | 5,142            | 3,400 | 32    | 34  |
| EVERGREEN ENGINEERING & CONSTRUCTION PTE. LTD.                                                                                                                                                             | 2022年1月        | 建物メンテナンス<br>電気・設備工事 | 3,670            | 7,485 | 1,217 | 312 |
| タイ                                                                                                                                                                                                         |                |                     |                  |       |       |     |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 東レ株式会社、東レインターナショナル株式会社と協働し、炭素繊維シートによる橋・高架橋の補強事業を推進中</li> <li>・ 2021年にJICA SDGsビジネス支援事業に採択。2023年1月に事業の契約を完了</li> <li>・ 現在、タイ国運輸省道路局所管の橋・高架橋の補強工事の施工を準備中</li> </ul> |                |                     |                  |       |       |     |
| 名 称                                                                                                                                                                                                        | 事業内容           |                     | 設立               |       |       |     |
| Thai Asanuma Holdings Co.,Ltd.                                                                                                                                                                             | 持株会社           |                     | 2021年6月          |       |       |     |
| Thai Asanuma Construction Co.,Ltd.                                                                                                                                                                         | 高速道路・橋梁のメンテナンス |                     | 2021年7月          |       |       |     |

11

続きまして、11 ページをご覧ください。ここではリニューアル事業強化の三つ目の施策として、ASEAN 地域での事業強化についてご説明いたします。

まず一つ目、青緑色の帯でシンガポールと記載しておりますけれども、シンガポールにおいては2018年に子会社化した SINGAPORE PAINTS という会社と、あとは二つ目、去年の1月に子会社化した Evergreen という2社につきましては、受注、売上、利益ともに堅調に推移してございます。特に一番冒頭の業績説明のところでも言及しましたけれども、2社目の Evergreen 社につきましては連結ベースの業績にも大きく貢献してございます。

また二つ目に、青緑の帯にタイと記載しておりますけれども、タイでは2021年に子会社を設立しまして、東レ株式会社様、東レインターナショナル株式会社様と協働しまして、炭素繊維シートというものをを用いて高架橋などの補強事業を推進してございます。

この事業は2021年にはJICAのSDGsビジネス支援事業に採択されまして、今年の1月には事業の契約を完了いたしました。

現在はタイ国運輸省道路局の所管の高架橋などの補強工事の施工を準備しております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



## 2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

### (2) 生産労働人口の減少への対応 ①協力会社との協働推進



■ 協力会社との協働強化を目的に、**処遇改善、取引条件の向上、表彰制度の活用**等を実施

#### 処遇改善・取引条件の向上

|                        |                                                                                                                                                                        |
|------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 建設キャリアアップシステム(CCUS)の推進 | <ul style="list-style-type: none"> <li>技能者の資格や現場での就業履歴等を登録・蓄積し、技能・経験に見合った処遇を企図した国土交通省と建設業界団体が官民一体で推進するシステム</li> <li>CCUSの取組み状況が優良な作業所・協力会社への表彰制度を2022年度より開始</li> </ul> |
| 協力会社宛支払いの100%現金化       | <ul style="list-style-type: none"> <li>協力会社宛支払いは手形を使用せず全て現金払いへ(2020年1月支払いより)</li> </ul>                                                                                |

#### 表彰制度の活用

|                    |                                                                                                                                                |                                                                                                                                                                         |
|--------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 浅沼マイスターの推進         | <ul style="list-style-type: none"> <li>協力会社の職長の中から「浅沼マイスター」を選任</li> <li>奨励金の授与を行い賃金面から処遇を改善</li> <li>2023年度認定更新よりCCUSへの登録を対象要件として追加</li> </ul> |                                                                                                                                                                         |
| 作業所生産性向上策表彰及び発表会開催 | <ul style="list-style-type: none"> <li>各作業所における協力会社との協働による生産性向上策を募集し、表彰、発表会を開催</li> </ul>                                                      |   |

#### 研修の開催

|          |                                                                                                                                           |                                                                                                                                                                          |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 協力会社との研修 | <ul style="list-style-type: none"> <li>協力会社で構成する弥生会の会員の技術者を対象に研修会を実施</li> <li>サステナビリティ基本方針、人権方針、調達方針の周知</li> <li>VRや安全帯による安全講習</li> </ul> |   |
|----------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

12

続きまして、12 ページ目をご覧ください。ここからは二つ目の外部環境変化である、生産労働人口の減少への対応の一つ目の柱として、協力会社との協働推進強化についてご説明させていただきます。

まず一つ目の青緑の帯をご覧くださいますとおり、協力会社の処遇改善、取引条件の向上として、まず一つ目、建設キャリアアップシステム、いわゆる CCUS というものが建設業界全体で取り組んでいる、建設技能者の処遇改善のためのシステムでございますけれども、こちらの推進をさらに強化すべく、CCUS の取り組みが優良な作業所、協力会社への表彰制度を開始いたしました。

また二つ目として、2021 年の 1 月から始めましたけれども、協力会社宛の支払いを手形払いではなく、全て現金払いとしました。この支払の 100%現金化は、協力会社の資金負担軽減を目的としたものです。

続きまして中段、表彰制度の活用をご覧ください。弊社独自の表彰制度である浅沼マイスターをもっており、それを継続実施することや、また作業所ごとに協力会社と協働で生産性向上策を出し合って、優秀なものを表彰するというを実施しております。

#### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



一番下に記載しておりますとおり、協力会社で構成する弥生会という会があり、そのメンバーの方々へ安全などの情報を共有することを目的に、研修も実施しました。

弊社にとって協力会社との協働は最重要施策、最重要課題の一つでございますので、今後についてもさらに充実を図ってまいります所存です。

## 2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

### (2) 生産労働人口の減少への対応 ②DX推進 (1/2)



#### ■ DX推進委員会にて、既存業務の高度化や効率化に資するDX化を推進

##### BIM・CIM<sup>1</sup>関連の導入推進

- 設計図面を3次元にすることで仕様や構造の検討の高度化・効率化
- 設計段階だけでなく施工時やその後の維持管理時における関係者間の合意形成・情報共有が容易
- 工程管理の効率化、高度化によるミスや手戻りの減少、安全性の向上



仮設計画のモデル化

##### タブレットを使用

- 工事写真の整理、一元管理
- 各作業工程の検査をタブレットにて実施
- 会議システムとの連携によりリアルタイムの監理が可能



タブレットで仕上がり検査



遠隔地からの監理が可能

##### 書類・業務の電子化

- 契約書、注文書、請求書などの電子化：CI-NET<sup>2</sup>の導入拡大へ
- 建退共の事務手続きの電子化：CCUSとの連携拡大へ

1. Building Information Modeling、Construction Information Modeling。3次元建物モデルに属性情報を持たせたもの。企画・設計・施工・維持管理等にて一貫して使用することができる。  
2. Construction Industry Network。建設生産に関わる様々な企業間の情報をネットワークを利用して交換するための仕組み。(出典(社)建設業振興基金)

続きまして、13 ページ目をご覧ください。ここでは生産労働人口減少への対応に欠かせない、DX 推進についてご説明いたします。弊社では DX 推進委員会を設置しておりまして、さまざまな課題を DX で解決しようと推進しております。

その主なものとしましては、まず一つ目、BIM・CIM と記載しておりますけれども、これは建物や構造物の立体的な 3D モデルに対して属性情報を持たせる、そういったソフトになりますけれども、これらを積極的に導入することで、図面の作成や仕様の決定といったさまざまなシーンで業務効率化、またお客様への提案の高度化が期待されております。

そういった BIM・CIM をさらに積極的に導入すべく、社員への BIM・CIM にかかわる研修を強化しまして、受注活動への展開や、施工段階への活用拡大に向けて取り組んでおります。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



二つ目に中段にございますとおり、タブレットの使用がございます。ご高承のことと存じますが、建設業界では、工事写真が本当に膨大な数がございまして、そういったものの整理や、あるいは遠隔地からの施工手順の確認を、タブレットを用いて実施しております。

三つ目、一番下ですけれども、書類、契約書、注文書、請求書といったものの電子化に取り組んでございまして、社内業務のみならず、社外との書類についても電子化の拡大を図っております。

## 2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

### (2) 生産労働人口の減少への対応 ②DX推進 (2/2)



#### ■ VRの活用、更なるDX化に向け他社との共同開発を実施

##### 他社との共同開発

- 「建設RXコンソーシアム」に参加し、ロボット、パワースーツ等の使用を他社と検討
  - ✓ 資材を自動で搬送するロボットの試行運転を実施
- 「共研21」では配筋検査システムのデジタル化を研究

##### VRの活用

- 安全教育
  - ✓ 個別の作業所ごとに今後設置する足場の配置をVRで再現
  - ✓ 事前にVRで再現することにより、今後の作業手順の確認が可能
  - ✓ 作業イメージが出来、安全意識の向上が図れ、新たな気づきや手戻りの防止などに繋がる



VRモデル（点群データ+3Dモデル）



VRによる安全教育訓練の様子



##### 施工検討会



##### 学生等への郊外学習



続きまして、14 ページをご覧ください。ここでも DX 推進の取り組みについてご説明しますが、業務の効率化、お客様への提案の高度化にとどまらず、さらに高いレベルでの DX 化を目指して取り組んでおります。その内容をご紹介します。

まず一つ目、他社との共同開発と記載しておりますが、これは複数の他社ゼネコンと一緒にコンソーシアム、グループのようなものを立ち上げまして、1社では資金面も含めて難しいDXでの取り組みを複数社と一緒に共同開発、検討を進めております。

その取り組みの一つとして、2022年度は自動搬送ロボットという、現場の資材を自動で搬送するロボットがございまして、それを他社と一緒に試行運転して、現場での普及活動や、実際の現場で使えるのか試行錯誤しているところでございます。

#### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



ロボット活用のほかにはパワースーツの使用など、このコンソーシアム傘下に複数のプロジェクトがございますが、弊社としてもいくつかのプロジェクトに参画して、検討を進めております。

またもう一つの取り組みとして二つ目、VRの活用、いわゆるバーチャルの活用も取り組みを実施しております。

建設業では工事ごと、工程ごとに作業所の状況や安全の状況、足場の状況等が刻々と変わります。その内容を事前にVR、いわゆるバーチャルで再現しまして、工事の進捗に合わせた安全の教育、または施工手順の検討が可能になっております。

これにより安全意識の向上も図れますし、実際の作業での工程の手戻りを削減することが期待されます。

また、このシステムは簡易的なものもつくられておりまして、その簡易バージョンは未経験者のトレーニングや、右下の写真のとおり、学生への校外学習の一つとしても使われております。

## 2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

### (3) 非財務経営活動(ESG・SDGs等) ①エコフレンドリーASANUMA21(脱炭素化)



- 脱炭素化の取り組み施策「エコフレンドリーASANUMA21」を推進
- CO<sub>2</sub>削減目標にスコープ3（カテゴリ11）を追加する他、全ての新規着工作業所へ再生可能エネルギー電力の導入や、環境配慮型コンクリートを開発・顧客宛提案を実施

#### 長期CO<sub>2</sub>削減目標に、スコープ3の削減目標を追加

| 対象                          |     | 単位                      | 基準年度 |         | 目標年度            |                 |
|-----------------------------|-----|-------------------------|------|---------|-----------------|-----------------|
|                             |     |                         | 年度   | 排出量     | 2030年度          | 2050年度          |
| スコープ1+2<br>(建設工事のみ対象)       | 原単位 | t-CO <sub>2</sub> /億円 * | 1990 | 30      | 15<br>▲50%      | 9<br>▲70%       |
|                             | 総量  | t -CO <sub>2</sub>      | 1990 | 74,193  | 20,032<br>▲73%  | 11,871<br>▲84%  |
| スコープ3 カテゴリ11<br>(自社設計+他社設計) | 総量  | t -CO <sub>2</sub>      | 2021 | 693,428 | 589,414<br>▲15% | 450,728<br>▲35% |

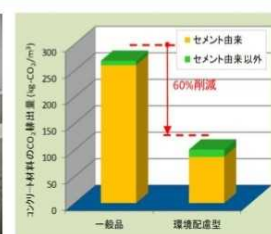
\*完工高1億円当たりの排出量

スコープ1：事業活動で発生するCO<sub>2</sub>  
スコープ2：電気ガスの使用による間接排出のCO<sub>2</sub>  
スコープ3：お客様にお引渡しした建築物の使用時に排出されるCO<sub>2</sub>

#### 再生可能エネルギー100%の電力を 新規着工作業所全てに導入



#### 環境配慮型コンクリート 耐久性を確保しCO<sub>2</sub>を60%削減



それでは続きまして、15 ページをご覧ください。ここでは非財務経営活動の一つ目として、脱炭素化の取り組みについてご説明します。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com

弊社では 2010 年より、脱炭素化の取り組みをエコフレンドリーASANUMA21 とネーミングしまして取り組んでまいりました。その取り組みの一部をご紹介します。

弊社はこれまで自社の事業活動に伴い発生する CO2、いわゆる Scope1、Scope2 といわれる削減目標はもともと設定しておりましたが、自社が排出する CO2 だけではなく、お客様に建物を引き渡した後、建物を実際に使用するときには排出される CO2 の排出量に Scope3 カテゴリー11 というものがあり、この Scope3 カテゴリー11 の割合が大きく占めていることが判明しました。したがってこの Scope3 カテゴリー11 の削減目標についても、新しく追加設定をいたしました。

この Scope3 カテゴリー11 の CO2 を削減するためには、お客様へのご提案段階で検討しなければならないので、お客様にご提案する際に建物用途や、特性に応じたご提案、例えば環境配慮型材料をお示しして、ご紹介するといったことを実施しております。

それ以外に目標達成に向けた CO2 削減の取り組みとしては、主なものとしては左下記載のとおり、再生可能エネルギー100%の電力を去年の 4 月から新規着工作業所全てに導入いたしました。

もう一つとしてその右側記載のとおり、環境配慮型コンクリート、これは右側の表に記載のとおり 60%ほど CO2 を削減できますので、こういった環境配慮型のコンクリートをお客様に積極的に提案を実施しております。

---

## サポート

|         |               |         |                         |
|---------|---------------|---------|-------------------------|
| 日本      | 050-5212-7790 | 米国      | 1-800-674-8375          |
| フリーダイヤル | 0120-966-744  | メールアドレス | support@scriptsasia.com |

## 2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

### (3) 非財務経営活動(ESG・SDGs等) ②サステナビリティの推進



- サステナビリティ推進委員会にて、ESG・SDGsに関連する取り組みを推進

#### 「サステナビリティ推進委員会」の主な取り組み

##### 環境経営推進に向けた取り組み

- ・ 環境経営推進に向け、ワーキンググループを設置し技術面から検討
- ・ 技術発表会での「環境技術賞」創設し、2022年度から表彰制度導入

##### TCFD（気候関連財務情報開示タスクフォース）関連活動の推進

- ・ ガバナンス、リスク管理（4℃と1.5℃のシナリオ分析）、戦略、指標と目標をウェブサイトの開示
- ・ 気候変動関連の中長期的目標策定

スコープ1,2

スコープ3 カテゴリー11

原単位と総量の目標

総量目標（2023年度より対応）

##### 人権方針、調達方針策定、マルチステークホルダー方針策定

- ・ サステナビリティ基本方針に加え、人権方針、調達方針、マルチステークホルダー方針を策定し、ウェブサイトの開示

##### パートナーシップ構築宣言

- ・ 取引先や価値創造を図る事業者との連携・共存共栄を進め、新たなパートナーシップを構築することを、「発注者」側の立場から宣言



##### その他の検討課題

- ・ サステナビリティ経営における「KPI」設定と、中核人材や多様性の確保、人材育成方針や人権に配慮した施策の策定に向けた検討

16

続きまして、16 ページをご覧ください。ここでは非財務経営活動の二つ目の柱として、サステナビリティの推進の取り組み状況についてご説明申し上げます。

弊社は経営会議傘下にサステナビリティ推進委員会を設置しておりまして、そこでの主な取り組みについてご説明いたします。

こちらの委員会では、環境経営に向けた施策の推進をしております。弊社はTCFDに賛同しておりますので、気候変動への取り組みの開示に向けたTCFD関連の活動の推進を行っております。

また中段にも記載のとおり、人権方針、調達方針、マルチステークホルダー方針といったものを策定しまして、ウェブサイトの開示するとともに社員への周知、また協力会社にも取り組みの徹底をお願いし、拡大を図っております。

またその下、経団連や関係省庁が進めております、パートナーシップ構築宣言についても、策定、実施を行いまして、サプライチェーンのお取引先様や事業者様と連携して、新たなパートナーシップの構築を目指しております。

#### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



その他の取り組みとしましては一番下の行に記載のとおり、サステナビリティ経営における KPI 設定。中核人材や多様性の確保、人材育成方針や人権に配慮した施策、そういった策定に向けて検討を実施しております。

## 2. 中期3ヵ年計画の進捗状況

### (3) 非財務経営活動(ESG・SDGs等) ③コーポレート・ガバナンス体制強化



■ コーポレート・ガバナンス体制強化に向けた取り組みを以下の通り継続実施

| コーポレート・ガバナンスのさらなる強化 |                                                                                                                                                                                                                                                   |
|---------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 取締役会・監査役会の社外役員構成比   | <ul style="list-style-type: none"> <li>取締役会の社外取締役の割合 <b>1/3</b> (内、女性社外取締役 1名)</li> <li>社外監査役の割合 <b>3/4</b> (内、女性社外監査役 1名)</li> </ul>                                                                                                             |
| 取締役会の実効性評価          | <ul style="list-style-type: none"> <li>外部機関による実効性評価を継続実施 (2019年度より開始)</li> <li>評価は平均以上</li> </ul>                                                                                                                                                 |
| 指名・報酬委員会の運営         | <ul style="list-style-type: none"> <li>両委員会の委員長を社外取締役とし、構成は、過半数が社外取締役</li> <li>相応の開催回数にて審議 (2020年度 6回、2021年度 7回、2022年度 3回)</li> </ul>                                                                                                             |
| 役員報酬制度              | <ul style="list-style-type: none"> <li>譲渡制限付株式報酬制度を導入し継続付与 (2021年度より開始)</li> </ul>                                                                                                                                                                |
| I R の強化             | <ul style="list-style-type: none"> <li>各種説明会・面談を継続実施 <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 機関投資家向け説明会 (2022年度 2回)</li> <li>✓ 個人投資家向け説明会 (2022年度 2回)</li> <li>✓ 機関投資家面談 (2022年度 15回)</li> </ul> </li> </ul>                                     |
| 保有株式について            | <ul style="list-style-type: none"> <li><b>上場株式の保有適否判断基準を設定し、每期取締役会にて確認</b><br/> <b>判断基準：配当と工事粗利益の便益が株主資本コストを下回る場合に縮減</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 2023年3月末時点の上場株式残高 <u>39.1億円</u><br/> 連結純資産比率 <u>8.8%</u></li> </ul> </li> </ul> |

17

続きまして、非財務経営活動の三つ目として、コーポレート・ガバナンス。ガバナンスの体制強化についてご説明申し上げます。

まず一つ目でございますけれども、取締役会・監査役会の社外役員構成比につきましては、取締役会は3分の1以上、監査役会につきましては4分の3以上が社外の方になっております。

また二つ目の取り組みとして、取締役会の実効性評価。こちらは毎年行っておりまして、昨年度も継続実施しておりますが、こちらについても每期評価は平均以上となっております。

三つ目の取り組みとして、指名・報酬委員会の運営でございますけれども、こちらにつきましては委員長が社外取締役の方で、また構成員の過半数を社外取締役としております。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



四つ目の取り組みとしましては、役員報酬制度でございますが、譲渡制限付株式報酬制度を役員報酬制度に取り込んでおります。また、固定報酬と業績連動報酬の割合は約 7 対 3 となっております。

五つ目の取り組みとして IR の強化でございますが、本日お集まりいただいているような機関投資家様向けの説明会、こういったものを開催するほかに、個人投資家様向けの説明会、また機関投資家様との個別の面談を随時実施しておりまして、IR の強化に取り組んでおります。

最後に保有株式についてですけれども、弊社は上場株式の保有適否判断基準を、配当と工事粗利益の便益が株主資本コストを下回る場合に縮減という保有適否判断基準をもうけております。この基準をベースに毎期の取締役会では基準を満たしているかどうかを確認、チェックしまして、その確認の結果、2023 年 3 月末時点の上場株式の残高は 39.1 億円。連結純資産比率は 8.8%と 10%未満となっております。

### 3. 投資と株主還元



- 「利益が生む資金を投資と株主還元に分配」が基本方針
- 2023/3期までの 2 年間の投資と株主還元は以下の通り。配当性向は各期共70%以上確保予定

| 投資・資金投入計画                            | 修正前<br>3 ヶ年累計 | 修正後<br>3 ヶ年累計 <sup>1</sup> | 2023/3期<br>2 ヶ年累計<br>実績 |
|--------------------------------------|---------------|----------------------------|-------------------------|
| 技術開発・ICT 関連投資<br>(リニューアル技術の高度化、DX推進) | 30億円          | 29億円                       | 17億円                    |
| 新領域関連投資<br>(ASEAN地域におけるリニューアル強化)     | 50億円          | 34億円                       | 29億円                    |
| 計                                    | 80億円          | 63億円                       | 46億円                    |

| 配当性向 (連結) | 修正前   | 修正後   | 2023/3期<br>予定 |
|-----------|-------|-------|---------------|
|           | 50%以上 | 70%以上 | 73.3%         |

1. 2021年11月18日に開示した修正計画。「新領域関連投資 (ASEAN地域リニューアル強化)」の一部の投資額が確定したことを踏まえ、それ以外の「技術開発・ICT 関連投資」を含めた全体の資金投入計画を改めて検討・見直しを行ったことにより、当初の資金投入計画を減額し、株主還元を増額。

続きまして三つ目のトピックでございます、投資と株主還元についてご説明申し上げます。

#### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



19 ページ目をご覧ください。ここでは現中期 3 ヶ年計画の投資と株主還元についてご説明いたしますが、弊社はこのトップボックス 1 行目に記載のとおり、利益が生む資金を投資と株主還元に分けるというものを基本方針として掲げております。

一つ目の表が投資の実績・計画になりまして、その下が配当性向の実績・計画になりますけれども、一つ目の表をご覧くださいますとおり、投資の主な内容としましては技術の開発、ICT 関連投資、いわゆる先ほど説明したりリニューアル事業の強化、あるいは DX 推進と、あとは新領域関連投資、ASEAN 地域におけるリニューアル強化といったものに資金投入を実施しております。

2021 年 11 月、おとしの中計 1 年目の年になりますけれども、そこで ASEAN の M&A の投資額が確定しましたので、それに伴い、技術開発等も含めた全体の資金投入計画の見直しを実施しました。

その結果、当初計画しておりました投資総額が 80 億円と記載しておりますけれども、その右側に記載のとおり 63 億円に減額しました。伴って一番下の行、表の修正前、修正後のところをご覧くださいますとおり、株主還元につきましては配当性向を、もともと 50%以上だったものを 70%以上へと上方修正を実施いたしました。

今後についてもリニューアルの事業強化だったり、生産性の向上に資する投資だったり、そういったものをしっかり行っていくとともに、配当についてもしっかりと行ってまいる予定でございます。

---

## サポート

|         |               |         |                         |
|---------|---------------|---------|-------------------------|
| 日本      | 050-5212-7790 | 米国      | 1-800-674-8375          |
| フリーダイヤル | 0120-966-744  | メールアドレス | support@scriptsasia.com |

## 4. Topics



**浅沼組**

**ICT施工で迅速に工事を推進**

令和元年東日本台風では、各地で戦後最大規模を超えた洪水による甚大な被害が発生した。そのことを踏まえ、荒川における事前防災対策を進めることを目的とした荒川水系荒川治水プロジェクトが立ち上げられた。本工事はその一環であり、堤防のかさ上げ・拡幅・崩潰防止等の防衛の基礎工事を実施している。

施工箇所は、民家・川・農地・道路・施設等の公共施設。現場代理人 平藤寛

2023/1/31 日刊建設通信新聞

### 今宮工科高生が実務を体感



**大建協**

大建協が主催する「大建協工科高生が実務を体感」のイベントが、大建協の会館で開催された。このイベントは、工科高生が現場での実務を体験し、建設業界への理解を深めることを目的としている。

### モリタ新拠点開発の現場見学



**モリタ新拠点開発の現場見学**

モリタ建設は、新拠点を建設中である。この新拠点は、最新の設備と快適な環境を備え、従業員の生産性を向上させることを目指している。

2023/2/13 日刊建設通信新聞

### 仮想現場で体験学習



**仮想現場で体験学習**

建設現場の施工管理を学習する体験型教育システム、現場トレーナーというシステムがあります。このシステムは、VR技術を活用し、安全な環境で現場体験を可能にする。

2023/3/20 日刊建設工業

21

最後になりますが、四つ目のトピックスですが、直近で取り上げられた記事の内容についてご説明申し上げます。

まず、21 ページ目の左側の記事をご覧ください。こちらは荒川の洪水に備えた工事の一環の内容を示しておりますけれども、こちらは写真でもご覧いただけますとおり、隣接している民家や施設の影響を最小限にとどめるべく、工程の一部を ICT 施工の実施を行うことで、効率化、省力化を図った内容となります。これを好事例として記事に取り上げていただきました。

真ん中の記事でございますけれども、こちらについては写真が小さいですが、写真をご覧いただきますとおり、学生を現場に迎え入れて現場見学会を開催しました。そのときの様子を記事として取り上げていただいております。

右側につきましては、建設現場の施工管理を学習する体験型教育システム、現場トレーナーというシステムがありますけれども、そういったものについて取り上げていただいた際の記事となります。

ちなみにこちらのシステムは、もともと 2017 年に弊社が独自に開発してきたものを 2022 年以降、他社を交えて本格的なシステム開発をしようということに進められてきたものでございます。

## サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasia.com



内容としましては現場で起きる事故とか不具合とか、そういったものをビジュアルで示すとともに、クイズ形式で学ぶことができるシステムになっております。

私からのご説明は以上でございます。ご清聴ありがとうございました。

---

## サポート

|         |               |         |                         |
|---------|---------------|---------|-------------------------|
| 日本      | 050-5212-7790 | 米国      | 1-800-674-8375          |
| フリーダイヤル | 0120-966-744  | メールアドレス | support@scriptsasia.com |



## 質疑応答

---

**司会 [M]**：ありがとうございました。それでは、質疑応答に入らせていただきます。ご質問なさる方は挙手をお願いいたします。

なお、この IR ミーティングは質疑応答部分も含め、全文を書き起こして公開する予定です。したがって匿名を希望される場合は質問の際、氏名を省略していただいて結構です。

それでは、どうぞよろしくお願いいたします。いかがでしょうか。せっかくの機会でございます。はい、こちら。一番前の方。

**質問者 [Q]**：詳しいご説明、ありがとうございます。1 点だけ質問させていただきます。

先ほどの維持・修繕事業、リニューアル計画の部分ですけれども、8 ページのところで、国内が 15.1 で ASEAN リニューアルが 15.9 ということだったのですが、こちらについて例えば民間と官庁とかいう分け方をしますと、それぞれどうなるのでしょうか。イメージで結構ですので教えてください。以上です。

**話者 [A]**：国内、ASEAN とともに民間が 8 割、官庁が 2 割という区分けになっております。

**質問者 [Q]**：ありがとうございます。大変申し訳ないのですが、もう 1 点だけ追加させていただきたいのですが。

例えば民間と官庁のマージンでは、どういう感じになるのでしょうか。

**話者 [A]**：民間にしろ官庁にしろ、工事によって利益は変わりますので、一概に官庁が民間より儲かるとか、あるいは民間が官庁より儲かるということはございません。

ただ一ついえるのは、国内の建築リニューアルの利益率より、ASEAN の利益率のほうが高いことはいえます。

**質問者 [M]**：ありがとうございます。

**司会 [M]**：ありがとうございます。続いてご質問、どうぞ。よろしいですか。特にないようでございます。念のため、会社様からもし何か追加事項がございましたら、いかがですか。よろしいですか。分かりました。

それでは以上をもちまして、本日の説明会を終了いたします。どうもありがとうございました。

---

### サポート

日本 050-5212-7790 米国 1-800-674-8375  
フリーダイヤル 0120-966-744 メールアドレス support@scriptsasias.com

[了]

---

### 脚注

1. 音声不明瞭な箇所に付いては[音声不明瞭]と記載
2. 会話は[Q]は質問、[A]は回答、[M]はそのどちらでもない場合を示す

---

### サポート

|         |               |         |                         |
|---------|---------------|---------|-------------------------|
| 日本      | 050-5212-7790 | 米国      | 1-800-674-8375          |
| フリーダイヤル | 0120-966-744  | メールアドレス | support@scriptsasia.com |

## 免責事項

本資料で提供されるコンテンツの信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性等について、当社は一切の瑕疵担保責任及び保証責任を負いません。さらに、利用者が当社から直接又は間接に本サービスに関する情報を得た場合であっても、当社は利用者に対し本規約において規定されている内容を超えて如何なる保証も行うものではありません。

本資料または当社及びデータソース先の商標、商号は、当社との個別の書面契約なしでは、いかなる投資商品（価格、リターン、パフォーマンスが、本サービスに基づいている、または連動している投資商品、例えば金融派生商品、仕組商品、投資信託、投資資産等）の情報配信・取引・販売促進・広告宣伝に関連して使用してはなりません。

本資料を通じて利用者に提供された情報は、投資に関するアドバイスまたは証券売買の勧誘を目的としておりません。本資料を利用した利用者による一切の行為は、すべて会員自身の責任で行っていただきます。かかる利用及び行為の結果についても、利用者自身が責任を負うものとします。

本資料に関連して利用者が被った損害、損失、費用、並びに、本資料の提供の中断、停止、利用不能、変更及び当社による本規約に基づく利用者の情報の削除、利用者の登録の取消し等に関連して会員が被った損害、損失、費用につき、当社及びデータソース先は賠償又は補償する責任を一切負わないものとします。なお、本項における「損害、損失、費用」には、直接的損害及び通常損害のみならず、逸失利益、事業機会の喪失、データの喪失、事業の中断、その他間接的、特別的、派生的若しくは付随的損害の全てを意味します。

本資料に含まれる全ての著作権等の知的財産権は、特に明示された場合を除いて、当社に帰属します。また、本資料において特に明示された場合を除いて、事前の同意なく、これら著作物等の全部又は一部について、複製、送信、表示、実施、配布（有料・無料を問いません）、ライセンスの付与、変更、事後の使用を目的としての保存、その他の使用をすることはできません。

本資料のコンテンツは、当社によって編集されている可能性があります。

---

## サポート

|         |               |         |                          |
|---------|---------------|---------|--------------------------|
| 日本      | 050-5212-7790 | 米国      | 1-800-674-8375           |
| フリーダイヤル | 0120-966-744  | メールアドレス | support@scriptsasias.com |